自宅療養者の急な呼吸苦対策　酸素吸入器　迅速に提供　　　Dfile　2021.6（上）東京21.6.2

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、世田谷区は、在宅医療機器などのサービスを提供する「帝人ヘルスケア」と協定を結び、自宅療養中に呼吸苦になった感染者に、入院先が決まるまでの一時的措置として、すばやく酸素濃縮器を提供する事業を始めた。区の健康観察センターは、一日に一度、自宅療養者の健康観察をし、容体悪化の連絡を受けると、訪問看護ステーションなどに酸素吸入を依頼する。そして、医師が必要と判断したとき、同社と連携して必要な酸素濃縮器を自宅療養者宅に設置する。区によると、連絡から設置までは、一時間以内で行える。

【東京都の取り組み】

自宅療養急増 都が酸素濃縮装置約５００台確保　（2021.8.5）

東京都内で自宅で療養する人が急増するなか都は、在宅のまま酸素吸入を行う「酸素濃縮装置」を、およそ５００台確保して症状の急変に備えている。このうち、急に症状が悪化して入院が必要になってもすぐに入院できない緊急事態に備えて、在宅のまま酸素吸入を行う「酸素濃縮装置」５００台を借りる協定を先月下旬に複数のメーカーと結んだ。すでにおよそ１１０台は往診を行う会社や地域の医師会に貸し出ていて、実際に使用されたケースもある。このほかに、体内に酸素をどの程度取り込めているかを示す「酸素飽和度」を測る「パルスオキシメーター」をおよそ４万個用意し、都から直接、送ったり、保健所を通じて貸し出したりしている。都は自宅で療養する人がさらに増えた場合に「パルスオキシメーター」が不足しないよう追加で購入することも視野に、今後の対応を検討している。

<https://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/20210805/1000068344.html>

【東京都議会　議事録】

2021年4月から、東京都医師会や、夜間、休日に往診等を実施している事業者と連携し、自宅療養者の体調が悪化した際に、医師による速やかな電話、オンライン診療や往診を開始するとともに、往診する医師が緊急時に活用できるよう、酸素濃縮装置の確保も進めている。

　（令和３年第２回定例会(第９号)（速報版）　本文 2021-06-02）